

あいち農産物生産流通レポート

2023年3月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・「ナスの魅力発見とぬか床作り体験」を実施しました	(園芸農産課) 1
◎ 地域トピックス	
・食品表示普及啓発研修会の開催	(尾張農林水産事務所) 2
◎ 東日本情報	
・今年も洋菜品質検討会を開催	(東京事務所) 3
◎ フラワーページ	
・世界らん展2023 「花と緑の祭典」の開催	(東京事務所) 5
・第71回関東東海花の展覧会が開催されました	(園芸農産課) 6
◎ 青果	
・愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	9
・名古屋・東京市場における青果物の3月の見通し	10
◎ 花き	
・切花・鉢花の3月の見通し(県内市場)	22

※今月「西日本情報」はありません

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

「ナスの魅力発見とぬか床作り体験」を実施しました

園芸農産課

愛知県は野菜産出額、漬物出荷額ともに全国上位となっていますが、県民1人当たりの野菜摂取量は全国の中でも非常に低いレベルにあります。そこで、県では県民に愛知の野菜に興味をもってもらうため、収穫量全国第6位（2021年）のナスに着目し、「ナスの魅力発見とぬか床作り体験」を2023年1月27日に一宮市内にて実施しました。

1 「ナスの魅力発見とぬか床作り体験」事業の概要

当事業は農林水産省の「消費・安全対策交付金」の事業メニュー「食文化の保護・継承のための取組支援」として実施しました。今回は、愛知県において生産が盛んなナスの話題と漬物を通して伝統的な食文化への理解を深め、その食文化を地域や家庭で受け継いでいただくことを目的としました。



ナスと漬物の関わり等の講話

2 講話・体験会の内容

「ナスと漬物の関わり等の講話」は、事業実施に御協力いただいた三井食品工業(株)品質管理開発部の富田邦彦氏に、「ぬか床作り体験」は、同社の直売店「三井宮蔵」支配人の野々垣信次氏に講師をお願いしました。

(1) ナスと漬物の関わり等の講話

講話では、ナスの起源や歴史について、またナスにはGABAやアセチルコリン等が含まれており、リラックス効果や血圧改善が期待できると説明がありました。



ぬか床作り体験

(2) ぬか床作り体験

ぬか床作り体験では、「本物のぬか漬けの話」から始まり、ぬか床作りの注意点について、参加者は説明を受けながら1時間ほどかけてぬか床作りを行いました。また、講師からは、ぬか床には乳酸菌が活着しているため、作ってからの手入れが重要なことを特に強調され、「温度管理や毎日の攪拌などの際に、香り、水分、味、色を注意深く観察し、自分だけのぬか床を育ててください」と話されました。



生ぬかに食塩水

体験後に実施したアンケートでは、「ぬか床の基本が良く分かった」「大切に育てていきたい」「講義を小学校でも開催し、子供の意識を変えることで、親の野菜・漬物に対する認識の高まりにつながるのでは」などの感想・意見がありました。今回の事業で、参加者に愛知の野菜と漬物の魅力をアピールすることができました。



ぬか床に捨て野菜

さらに、当事業では愛知の野菜と漬物を紹介したリーフレットを作成、配布し、今後も広く県民に向けてPRに努めていきます。

食品表示普及啓発研修会の開催

尾張農林水産事務所

尾張農林水産事務所農政課では、食品表示の適正化を推進するため、食品関連事業者等を対象とした食品表示普及啓発研修会（以下「研修会」という。）を毎年実施しています。

今年度は、2023年1月13日（金）に、愛知西農業協同組合の職員（企画・仕入担当5名、産地直売所店長6名）を対象とした研修会を行いました。

1 研修会の内容

今回の研修会では、食品表示法に基づく「生鮮食品及び加工食品の表示」、「しいたけの原産地表示」及び「玄米及び精米に関する表示」の改正事項、さらに「米トレーサビリティ法」について説明しました。

「生鮮食品及び加工食品の表示」については、食品に共通する義務表示事項や、個別の食品ごとの表示ルール、表示する上での注意点等を説明し、ジャムや漬物といった産地直売所で多く販売されている加工食品をいくつか挙げ、表示例を紹介しました。

「しいたけの原産地表示」について、2022年改正により、原産地が採取地から植菌地となったこと、「玄米及び精米に関する表示」について、2020年改正により、精米年月旬の表示が可能となり、2021年改正により、農産物検査法による証明を受けていない場合でも、根拠資料の保管を要件として、品種、産地、産年等の表示が可能となったことを周知しました。

また、食品表示法の他に、米や米加工品に関する法律である「米トレーサビリティ法」について、概要、義務を負う対象者、対象となる食品の品目等を説明し、「米トレーサビリティ法」の普及啓発も併せて実施しました。

2 参加者の反応と今後の取組

参加者からは、「食品表示法等、食品を販売する上でのルールを遵守していきたい。」等の感想が聞かれ、充実した研修会となりました。

尾張農林水産事務所農政課では、食品表示法及び米トレーサビリティ法の遵守状況調査、表示相談等に対応しており、今後も食品表示の適正化を推進してまいります。



研修会の様子

今年も洋菜品質検討会を開催

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2023年2月2日（木）に京浜市場愛知県野菜連絡会洋菜研究会は、洋菜品質検討会を開催しました。

1 品質検討会の概要

同研究会は、静岡県京浜地区野菜流通協議会洋菜部会と合同で、例年、両県の洋菜類の出荷シーズンである1月～2月に、品質向上を目的として洋菜品質検討会を開催しています。

コロナ禍以前は、各卸売会社の担当者10数名のほか各産地の生産者も参加していましたが、今回は2021年、2022年と同様に、卸売会社は会場である大田市場内に所在する2社の参加とし、生産者は不参加で開催されました。また、短時間となるよう検討する産地数を減らす、市場情勢報告をあらかじめ配付資料とするなどの工夫も継続されました。

そうした中で、セルリー、ブロッコリー、カリフラワー、サニーレタス、グリーンリーフ、レタスの各品目について、卸売会社の担当者による品目ごとの所定の項目についての5段階評価のほか、病害虫被害株（玉）の混入個数等が確認され、品質が検討されました。



品質検討の様子

2 品質検討結果

(1) セルリー

愛知県内1産地含め4県4産地について検討されました。

愛知県産は、ボリューム感の項目で最も高い評価を得る一方、「大きいために折れが目立ち、割れていてもったいない」という声が聞かれました。

また、落とすべき部分が残りと、調製不足を指摘された産地がありましたが、「4産地とも基本的には品質良好」との総評でした。

(2) ブロッコリー

愛知県内2産地含め4県5産地について検討されました。

愛知県の2産地とも高い評価を受け、「花蕾の大きさが揃っていてきれい」と評されました。

「アントシアン*が出すぎており、触ると花蕾が緩い」と指摘された産地がありました。これに

*アントシアン：色素の一種。ブロッコリーは低温により花蕾が紫色に変色することがある。



株により散見されるアントシアン

対し、「アントシアンが出ていても量販店の理解が進みクレームにはならないものの、今回のようにアントシアンの出た株と出ていない株が混在していると売り場に並べた時の見映えが良くない。そのため、これが続くと他産地のものに切り替える動きになると予想される」との話がありました。

(3) カリフラワー

愛知県内1産地含め4県4産地について検討されました。

「いずれの産地も、株、色の揃いは良く、産地間では色の違いが見られる。詰め方に非常に気を遣っているのが分かる」と総評される中、愛知県産は「花蕾が他産地に比べると少し小さいが、非常に白くととてもきれい」と高い評価を受けました。

なお、「運送中の擦れによるクレームが多くなる時期になるが、非常にもったいないので、引き続き選果や荷詰めに気を遣って欲しい」との注意がありました。

(4) サニーレタス

愛知県内3産地含め4県7産地について検討されました。

総合的に高い評価を受けた産地がない中で、愛知県の3産地に対して、「丈が短くボリューム不足」、「外葉が変色気味」、「株により大小の差がある」と、それぞれ指摘されました。

また、他県産で見られた異物混入や、「ボリューム感があるが箱の中で押されており、変色につながる」との注意がありました。

(5) グリーンリーフ

愛知県内2産地含め5県6産地について検討されました。

「全体的に葉先の焼けや押されが多く、縦に伸びて横のボリューム感が薄い印象」という総評で、サニーレタス同様に高い評価を受けた産地はありませんでした。中でも愛知県の1産地に対して「どの株にも葉先焼けが見られる」との指摘がありました。また、「蓋に押されると変色につながる」との注意もありました。



指摘された葉先の焼け

(6) レタス

愛知県内1産地含め4県6産地について検討されました。

「全体的に適期収穫ができている」とされる一方、「寒さの影響で表層剥離が目立つ」と総評され、2県4産地が表層剥離を指摘されました。愛知県産については、「結球が締まりすぎて固そう」との指摘がありました。

また、他県の2産地で虫の混入が見られ、注意喚起されました。

品質検討結果の協議後、産地情勢や市場情勢の報告があり、大きな問題なく入荷が進むだろうことが確認されました。

卸売会社によると、「コロナ禍により取引形態が変化しているが、良いものから売れていく状況は変わらない」とのことです。今後も引き続き品質の高いものを揃えて出荷していくことが求められます。

世界らん展 2023 ー花と緑の祭典ー の開催

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

33回目を迎える世界らん展 2023（主催：世界らん展実行委員会（構成：読売新聞社、NHK、世界らん展組織委員会、東京ドーム））が、2023年2月8日（水）～14日（火）に東京ドームシティプリズムホールで開催されました。当展は、各種らんを使用した企画展示や、世界最大級のらんのコンテストなど花と緑の溢れる祭典として開催されています。

1 メイン企画の展示について

正面入口には、コチョウランやシンビジューム、オンシジュームなど、約10万輪のらんを使用したボリュームのあるウェルカムゲート「オーキッド・ゲート 2023」が展示され、フォトスポットとして人気を集めていました。

「らんの谷」では、高さ約4mの壁面がコチョウランやオンシジュームだけでなく、セロジネやバンダ等の各種のらんで埋め尽くされ、色とりどりのらんと甘い香りが溢れる展示となっていました。



オーキッド・ゲート 2023



らんの谷

2 コンテスト<世界らん展日本大賞>について

世界最大級のらんのコンテストとして、出品総数 517 作品（洋らん 416、東洋らん 41、日本のらん 60）を品種毎に 39 のカテゴリーに分けて審査され、最も優れた作品に日本大賞 1 点が授与されました。今回の日本大賞は、これまでになく大きさと丸いリップ（唇弁）等が評価されたパフィオペディラム エメラルド フューチャー ‘グリーン モンスター’ でした。また、愛知から出品されたデンドロビューム ペキシラリウス ‘パラダイス’ が奨励賞（第1席）を授与されました。

愛知は洋らんの産出額全国 1 位であり、こうした催しが、らんの消費拡大につながることを期待されます。



日本大賞



奨励賞（第1席）

第 71 回関東東海花の展覧会が開催されました

園芸農産課

関東東海花の展覧会は 1951（昭和 26）年から始まり、例年、皇室の御観覧をいただいている、我が国で最も伝統があり最大規模の花の展覧会です。この展覧会は、花きの生産技術の向上と花に対する理解と消費の啓発を図り、花き産業の健全な発展に寄与することを目的としています。

今年度は、愛知県が 9 年ぶりに当番県となって運營業務を行い、コロナ禍を経て 3 年ぶりの開催となりました。会期中は、花き品評会、フラワーデザインコンテストのほか、一般公開、即売会等を実施しました。また、会場内において愛知県産花きによる特別展示も行い、「花の王国あいち」を PR しました。

1 開催概要

(1) 会 期

2023 年 1 月 25 日（水）から 1 月 29 日（日）まで 5 日間

(2) 日 程

1 月 25 日（水）	品評会搬入・受付	
1 月 26 日（木）	品評会審査、フラワーアレンジメント搬入・受付・審査	
1 月 27 日（金）	特別御観覧	（ 9 時 45 分～11 時 30 分）
	開場式	（11 時 45 分～12 時 05 分）
	一般公開	（13 時 00 分～18 時 00 分）
1 月 28 日（土）	一般公開	（10 時 00 分～18 時 00 分）
1 月 29 日（日）	即売	（11 時 00 分～15 時 00 分）

(3) 会 場

サンシャインシティ 文化会館 2 階展示ホール D
（東京都豊島区東池袋 3 丁目 1 番）

(4) 主 催

第 71 回関東東海花の展覧会
【構成団体：愛知県、茨城県、群馬県、栃木県、東京都、埼玉県、千葉県、静岡県、神奈川県、岐阜県、三重県、山梨県、一般社団法人日本花き生産協会、一般社団法人日本花き卸売市場協会、一般社団法人 J F T D、一般社団法人日本種苗協会、公益社団法人日本フラワーデザイナー協会、一般財団法人日本花普及センター】

(5) 後 援

農林水産省、株式会社サンシャインシティ

(6) 協 賛

全国農業協同組合中央会、公益社団法人園芸文化協会、東海地域花き普及・振興協議会、全国農業協同組合連合会主催都県本部（茨城県、群馬県、栃木県、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、岐阜県、山梨県）、静岡県経済農業協同組合連合会、JA グループ愛知（愛知県農業協同組合中央会、愛知県信用農業協同組合連合会、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県厚生農業協同組合連合会、全国共済農業協同組合連合会愛知県本部）、愛知県花き温室園芸組合連合会

2 開催結果

(1) 愛知県特別展示

愛知県は、1962年から花きの産出額が全国第1位で、多種多様で高品質な花が生産されています。

愛知県特別展示では、「AICHI FLOWER COLLECTION 未来へつなげる、花の現在（いま）」をテーマに、愛知県産花きによる色彩豊かで豪華なシンボルモニュメントを中心に、カラフルで新しいキクの使い方やデジタルアートとの共演など、「花の王国あいち」の魅力を最大限に活かし、来場者を楽しませていました。



シンボルモニュメント

(2) 花き品評会、フラワーデザインコンテスト

1月26日（木）に実施した花き品評会では、10部門（カーネーション、きく、ばら、球根切花、一般切花、枝物・切葉、花壇用苗物、観葉植物、一般鉢物、洋らん）で計1,439点の出品がありました。

また、フラワーデザインコンテストは、3部門（アレンジメント、ブライダルブーケ、フローラルアクセサリ）で計92点の出品がありました。

厳正な審査の後、農林水産大臣賞を始めとする各賞を決定しました（表1）。

◆表1 愛知県の農林水産大臣賞受賞者

部門	受賞者
カーネーション	鳥居 優（西尾市）
きく	河合 貴文（田原市）
観葉植物	荒木 祥充（田原市）



花き品評会の審査の様子



フラワーデザインコンテストの審査の様子

(3) 一般公開、園芸教室

1月27日（金）は皇室の御観覧の後、開場式が行われ、第71回関東東海花の展覧会会長である大村知事からの挨拶、来賓らによるテープカットの後、一般公開が始まりました。

2日間の一般公開では、多くの来場者が訪れ、会場内の花々や作品の写真を撮るなど賑わいを見せていました。

また、2日間で計5回の園芸教室が行われ、アレンジメントの作成等を実施しました。参加者は、講師の指導の下、きれいな作品を仕上げることができ、満足した様子でした。



会長によるあいさつ

(4) 即売会

1月29日（日）は、即売会を実施しました。品評会に出された高品質な花きを購入することができるため、開場前から列ができ、用意した整理券はすべて配布するなど、多くの方に来ていただくことができました。



会場内の様子

愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ± 1 % 台以下
 わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：ふき）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
2022年実績	394	388 (99%)	283	276	愛知 (99%) 徳島 (1%)
2023年見通し	375	—	285	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>県内の主な産地は知多半島、稲沢市、あま市である。</p> <p>1月の冷え込みにより生育が遅れ気味で丈の短いものが多く、例年より短いL中心の入荷となる見通し。</p> <p>入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並の見込み。</p>			<p>愛知県は古くからふきの大産地であるが、生産者の高齢化により、栽培面積は年々減少しており、入荷量も微減が続いている。</p> <p>近年は、一般家庭で食べられる機会が減少しているものの、以前からふきを食べている消費者から一定の需要があるため、産地には栽培面積と入荷量の維持をお願いしたい。</p> <p>また、若い世代への消費促進を図るために、食べ方を含めた販売をお願いしたい。</p>		

○ 東京都中央卸売市場（品目：ふき）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
2022年実績	429	297 (69%)	425	451	愛知 (69%) 群馬 (26%) 千葉 (2%)
2023年見通し	370	—	450	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>全国的に栽培面積、生産量の減少が続いている中、愛知県産は、2月上旬は端境期のため数量を減らしたが次第に回復し、3月上旬には数量を大きく増やす見込み。</p> <p>増量に伴い価格は下落するが、3月中旬からタケノコと共に売り込まれて需要のピークに入り、単価を上げる見込み。</p> <p>入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>			<p>栽培面積の減少、生産量減少が今後も続く予想されるが、ふきは日本古来の野菜であり、入荷量の維持・確保をお願いしたい。</p> <p>また、抑制ふきから促成ふきのシーズンを通した安定入荷をお願いする。あわせて、有利販売のための出荷情報の共有化をお願いしたい。</p> <p>さらに、量販店中心の販売となっている中で、産地の魅力の発信やブランド化の確立をお願いしたい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の3月の見通し

名古屋中央卸売市場

2月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

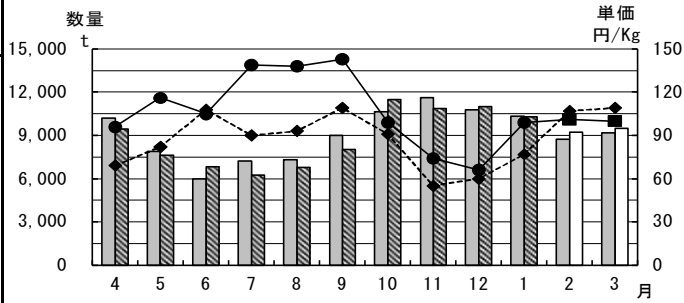
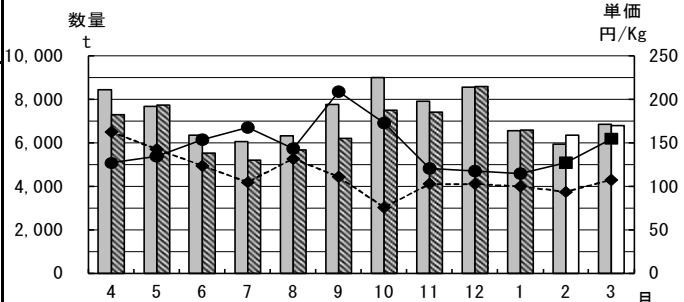
品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2018年	34,937	229	254	229	204	愛知 25%
	2019年	33,666	206	213	208	195	北海道 17%
	2020年	34,355	216	212	218	218	鹿児島 9%
	2021年	34,866	218	222	216	215	茨城 9%
	2022年	33,320	246	259	249	231	徳島 5%
	5カ年平均	34,229	223	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	34,500	212	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
愛知と北海道を中心に鹿児島、茨城などから入荷する。気温の上昇や日照の増加から、順調な入荷となり、葉茎菜類や果菜類の多くで、前年並の入荷を見込む。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。							
だいこん	2018年	1,823	124	176	114	92	千葉 41%
	2019年	1,500	77	72	79	86	鹿児島 25%
	2020年	1,512	85	77	78	105	静岡 17%
	2021年	1,764	84	80	88	89	愛知 7%
	2022年	1,705	113	118	116	110	神奈川 7%
	5カ年平均	1,661	98	107	96	96	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1,600	96	100	95	95	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
千葉、鹿児島、静岡を中心に入荷する。千葉、静岡は平年並の入荷を見込む。気温次第だが、千葉は中旬以降、春大根の入荷が増量する予想。愛知は、気温が高ければ下旬頃より入荷が始まるが、本格的な出荷は4月に入ってからか。入荷量、価格ともに前年をかなり下回る見込み。							
にんじん	2018年	1,138	244	218	250	272	徳島 52%
	2019年	1,756	118	112	131	109	愛知 43%
	2020年	1,846	167	125	174	194	鹿児島 2%
	2021年	1,965	210	207	218	204	千葉 2%
	2022年	2,253	110	101	113	119	
	5カ年平均	1,792	162	146	170	171	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2,100	150	130	150	150	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
徳島、愛知主体の入荷となる。愛知からの入荷は上旬でほぼ終了し、昨年と比べ、切り上がり早い。徳島は生育良好で、中旬に向けて増量の見込み。M中心の予想。入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。							

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

2月28日 現在

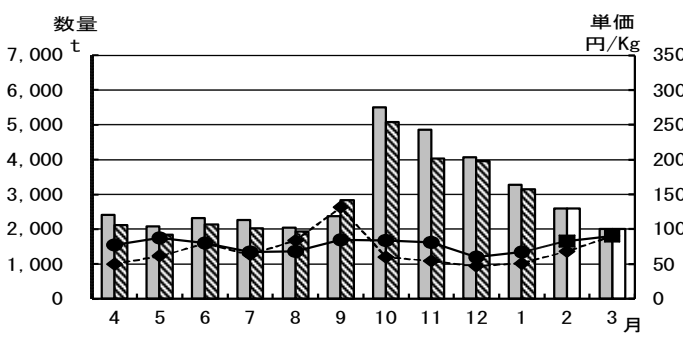
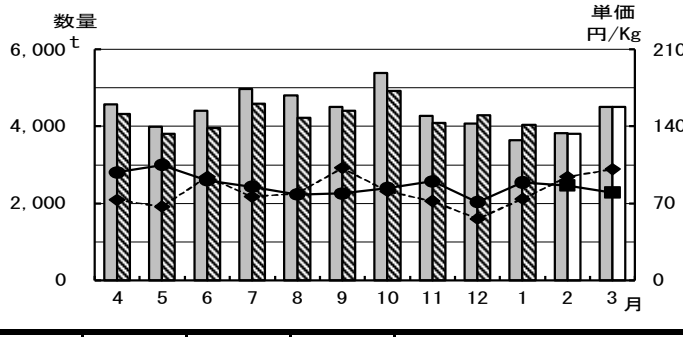
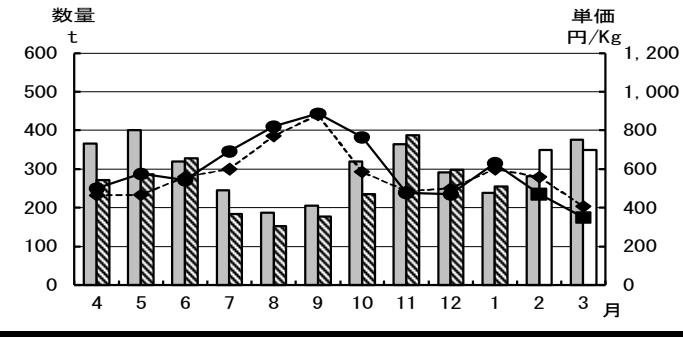
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2018年	130,737	259	286	243	245	千葉 16%
	2019年	123,182	230	227	228	235	茨城 14%
	2020年	124,375	244	228	235	263	愛知 11%
	2021年	121,378	238	240	236	240	北海道 9%
	2022年	117,046	268	279	267	259	神奈川 6%
	5カ年平均	123,344	248	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	123,000	250	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>秋冬作から春作へと切り替わり、関東産地や愛知からの入荷が中心となる。2月は低温で果菜類は数量減も、露地野菜は気温上昇と適度な降雨で出回りは順調だった。3月も気温が上がり入荷は潤沢とみる。入荷量は前年をやや上回り、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。</p>							
だいこん	2018年	12,250	116	169	105	82	千葉 49%
	2019年	9,739	76	76	70	84	神奈川 45%
	2020年	10,224	77	71	65	95	福岡 2%
	2021年	10,009	77	74	77	79	静岡 1%
	2022年	9,160	109	113	113	101	青森 1%
	5カ年平均	10,276	92	103	86	88	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	9,500	100	105	95	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>千葉、神奈川からの入荷がほとんどを占める。低温と干ばつの影響による生育遅れがみられる。気温上昇と降雨で回復するか。千葉はトンネル作からの入荷が中心となって増量し、出回りは潤沢な見込み。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							
にんじん	2018年	6,034	197	179	203	212	徳島 43%
	2019年	7,566	107	103	113	103	千葉 40%
	2020年	6,436	175	153	175	188	茨城 4%
	2021年	6,636	210	210	219	202	埼玉 4%
	2022年	6,861	108	111	106	107	鹿児島 3%
	5カ年平均	6,707	157	149	161	159	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	6,800	155	150	170	145	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>徳島、千葉を中心に入荷する。肥大良好な千葉は収穫期の終盤になり量を減らしていく。代わって徳島は収穫期に入り量を増やしていく。寒波や降雪があったものの、生育は概ね順調で、潤沢な入荷を見込む。入荷量は前年並となり、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

2月14日 現在

単位：入荷量=トン、卸売価格=円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	2018年	2,079	133	156	121	116	茨城 53%
	2019年	2,045	64	51	67	73	兵庫 13%
	2020年	2,308	116	101	104	135	長崎 12%
	2021年	2,258	63	56	65	70	三重 9%
	2022年	2,001	90	77	94	103	熊本 8%
	5カ年平均	2,138	93	88	90	100	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2,000	90	73	93	93	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、兵庫、長崎などから入荷する。各産地とも、近年の安値の影響があり作付を減らしている。茨城は下旬より増加する予想。中旬からは、九州の春白菜が入荷し、量は少ない予想。量販においては、白菜の売場が縮小。漬物、加工業務は、使用量減少となっていて厳しい状況。 入荷量、価格ともに前年並の見込み。</p>					 <p>数量 単価 7,000 t 円/Kg 350</p>
キヤベツ	2018年	4,010	128	185	118	102	愛知 90%
	2019年	4,535	54	57	48	59	滋賀 4%
	2020年	3,944	82	76	68	94	三重 3%
	2021年	4,882	61	64	61	60	兵庫 1%
	2022年	4,504	101	107	113	89	静岡 1%
	5カ年平均	4,375	84	96	81	80	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	4,500	80	80	80	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知主体の入荷となる。愛知は生育良好で、順調な入荷見込み。1～2月の雨が少なく生育が停滞気味だったため、雨の次第で生育が安定し、入荷が増える見込み。 入荷量は前年並、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					 <p>数量 単価 6,000 t 円/Kg 210</p>
ほうれんそう	2018年	489	350	374	319	373	愛知 41%
	2019年	330	377	335	358	465	茨城 39%
	2020年	283	487	423	462	587	岐阜 7%
	2021年	383	357	361	329	384	静岡 5%
	2022年	376	407	476	369	388	福岡 2%
	5カ年平均	372	389	392	360	427	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	350	350	400	350	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知、茨城を中心に入荷する。気温の上昇と日射量の増加に伴い、各産地、増量を見込む。関東の一部産地は、3月上旬ごろに出荷のピークとなる予想。 入荷量と価格はともに、かなり下回る見込み。</p>					 <p>数量 単価 600 t 円/Kg 1,200</p>

東京都中央卸売市場

2月28日 現在

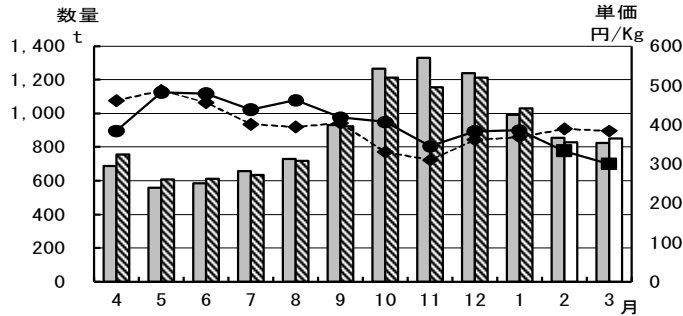
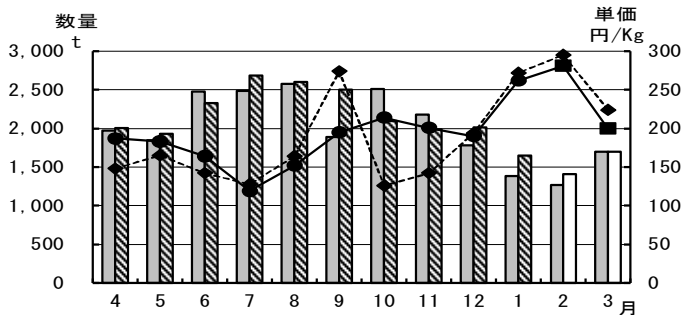
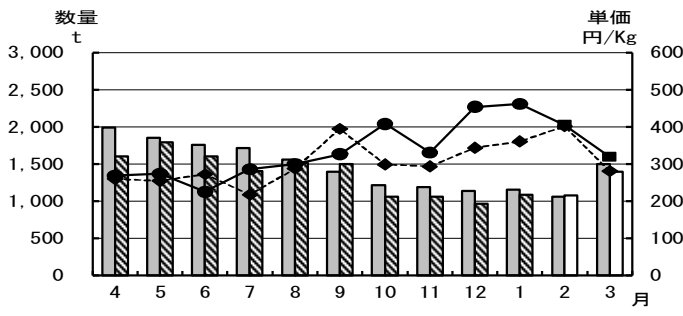
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうろく	2018年	7,959	135	159	122	113	茨城 69%
	2019年	7,420	46	38	42	60	兵庫 16%
	2020年	8,079	103	80	90	144	群馬 8%
	2021年	8,733	43	33	41	58	長崎 5%
	2022年	7,742	80	61	78	111	埼玉 1%
	5ヵ年平均	7,987	81	74	74	97	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	7,600	85	80	90	85	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城を中心に、兵庫などからの入荷となる。茨城は春作に切り替わるが、秋冬作の切り上がりが早いいため、後半に増量か。兵庫は冷蔵品が中心で、量は多くない見込み。 入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
		<p>ほうろく 数量・単価推移グラフ (4月～3月)。数量は棒グラフ、単価は折線グラフで示されています。数量は4月から10月まで増加傾向にあり、11月以降は減少傾向にあります。単価は4月から9月まで増加傾向にあり、10月以降は減少傾向にあります。</p>					
キヤベツ	2018年	17,665	139	183	124	118	愛知 58%
	2019年	19,841	62	64	57	66	千葉 27%
	2020年	18,316	93	77	75	119	神奈川 12%
	2021年	19,099	62	62	64	61	群馬 1%
	2022年	18,052	112	114	116	106	
	5ヵ年平均	18,595	92	98	86	93	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	18,000	100	95	100	105	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知、千葉、神奈川からの入荷がほとんどを占める。主力の愛知は、おおむね生育順調で、気温上昇により玉肥大が進み潤沢な入荷を見込む。千葉、神奈川も生育順調で、総じて潤沢な出回りとなる見込み。 入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
		<p>キヤベツ 数量・単価推移グラフ (4月～3月)。数量は棒グラフ、単価は折線グラフで示されています。数量は4月から10月まで増加傾向にあり、11月以降は減少傾向にあります。単価は4月から9月まで増加傾向にあり、10月以降は減少傾向にあります。</p>					
ほうろ	2018年	1,722	389	382	368	421	茨城 49%
	2019年	1,495	357	307	362	418	群馬 26%
	2020年	1,359	499	427	434	628	埼玉 9%
	2021年	1,609	334	349	305	350	栃木 5%
	2022年	1,702	402	432	350	424	千葉 5%
	5ヵ年平均	1,577	393	380	361	442	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1,700	400	420	350	430	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、群馬など関東産地からの入荷が中心となる。主力の茨城を始め各産地とも生育順調。一部産地では低温障害がみられるものの大きな問題にはならない。安定した入荷が続くと見込まれる。 入荷量、単価ともに前年並となる見込み。</p>					
		<p>ほうろ 数量・単価推移グラフ (4月～3月)。数量は棒グラフ、単価は折線グラフで示されています。数量は4月から10月まで増加傾向にあり、11月以降は減少傾向にあります。単価は4月から9月まで増加傾向にあり、10月以降は減少傾向にあります。</p>					

名古屋市中央卸売市場

2月14日 現在

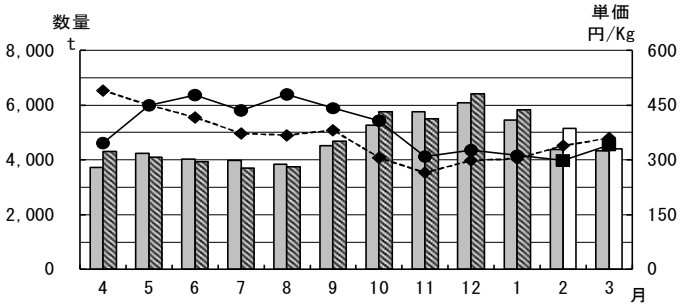
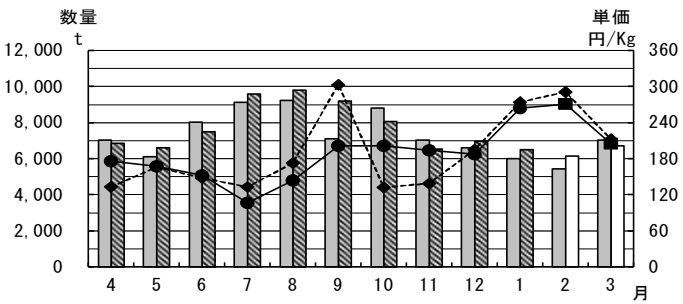
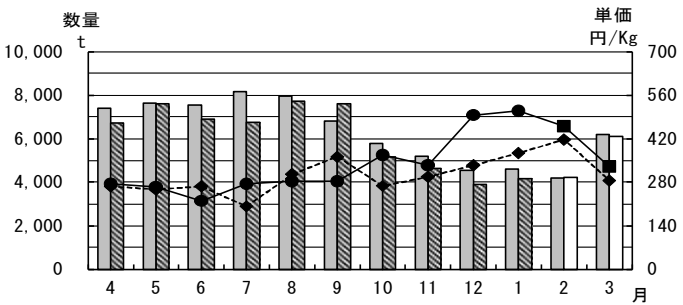
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2018年	766	424	484	413	374	大分 29%
	2019年	892	293	298	288	302	静岡 16%
	2020年	886	304	303	292	316	鳥取 12%
	2021年	744	433	473	417	409	愛知 8%
	2022年	826	384	416	374	365	群馬 7%
	5ヵ年平均	823	363	389	353	350	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	850	300	300	300		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>大分、静岡、鳥取、愛知などの各産地から入荷する。各産地、安定した入荷を見込む。白ねぎについて、大分、鹿児島などの九州産地で遅れていた分の入荷が続き、増量の見込み。愛知は越津ねぎが終盤となり、減少していく。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
しそ	2018年	2,086	182	231	154	162	茨城 40%
	2019年	1,661	178	166	168	205	兵庫 24%
	2020年	1,722	201	172	178	243	静岡 9%
	2021年	1,754	147	147	146	149	熊本 9%
	2022年	1,696	224	271	218	192	長崎 7%
	5ヵ年平均	1,784	186	199	172	189	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1,700	200	220	200	180	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、兵庫を中心に入荷する。作付面積は減少傾向で、L中心の入荷を見込む。各産地、2月の低温の影響により、3月上旬までは多くない見込み。茨城は、3月中旬から増加する予想。 入荷量は前年並、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。</p>					
きゅうり	2018年	1,582	285	293	291	272	愛知 60%
	2019年	1,428	312	325	333	281	宮崎 14%
	2020年	1,610	324	348	343	298	鹿児島 10%
	2021年	1,539	307	318	319	290	高知 9%
	2022年	1,497	281	318	275	255	群馬 6%
	5ヵ年平均	1,531	302	320	312	279	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1,400	320	360	320	280	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知を中心に宮崎、高知、鹿児島等の西南暖地から入荷する。各産地、徐々に増量し、気温が上がれば順調な入荷を見込む。中下旬に増量し、単価安になるか。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

2月28日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2018年	4, 5 6 2	4 2 0	508	407	344	千葉 37%
	2019年	4, 5 6 4	2 7 9	321	271	251	埼玉 20%
	2020年	4, 8 9 4	2 6 8	264	250	286	茨城 15%
	2021年	3, 9 8 3	4 8 6	537	473	447	栃木 8%
	2022年	4, 3 3 2	3 6 0	389	352	343	群馬 7%
	5カ年平均	4, 4 6 7	3 5 8	398	346	330	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	4, 4 0 0	3 4 0	370	330	320	
ねぎ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>千葉、埼玉、茨城など関東産地からの入荷が中心となる。主力の千葉は生育順調。前進傾向が低温等で落ち着き、肥大は良好。埼玉でみられる低温、干ばつによる生育遅れは回復か。入荷は潤沢な見込み。入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。</p>						
し	2018年	9, 7 0 2	1 6 8	221	136	147	茨城 46%
	2019年	7, 2 7 4	1 6 7	163	157	183	静岡 15%
	2020年	6, 7 9 9	1 8 6	160	163	229	長崎 11%
	2021年	7, 1 7 4	1 3 3	135	126	138	香川 7%
	2022年	7, 0 1 7	2 1 2	258	202	177	栃木 5%
	5カ年平均	7, 5 9 3	1 7 3	190	155	172	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	6, 7 0 0	2 0 5	210	200	205	
し	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>茨城を中心に、静岡などからの入荷となる。茨城等でみられた低温、干ばつによる生育遅れは解消し、量を増やしていく見込み。静岡は量を減らしていき、総じて出回りは少なめか。入荷量は前年をやや下回り、価格も高値だった前年をやや下回る見込み。</p>						
き	2018年	6, 7 6 0	3 0 7	313	307	300	群馬 26%
	2019年	5, 8 4 1	3 3 0	352	360	287	宮崎 22%
	2020年	6, 2 6 6	3 5 2	386	365	324	千葉 15%
	2021年	6, 1 3 7	3 1 1	325	313	297	埼玉 13%
	2022年	6, 1 8 4	2 8 5	323	271	264	茨城 12%
	5カ年平均	6, 2 3 8	3 1 7	339	323	295	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	6, 1 0 0	3 3 0	380	310	300	
き	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>群馬、千葉などの関東産地と宮崎からの入荷が中心となる。群馬で低温、乾燥の影響や、千葉で低温、曇天の影響による生育遅れが残るものの、大きな問題はない。気温上昇に伴い増量していくか。入荷量は前年並となり、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>						

名古屋市中央卸売市場

2月14日 現在

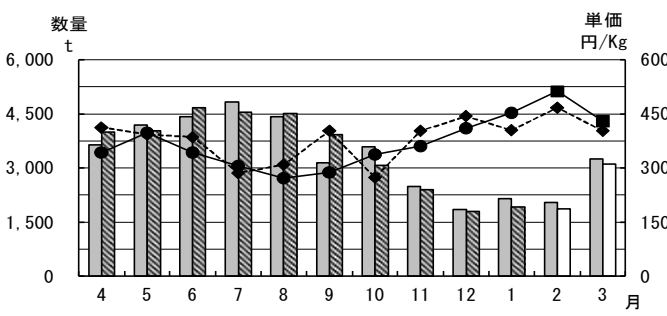
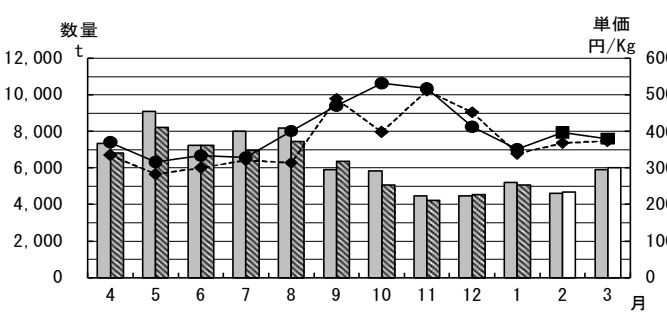
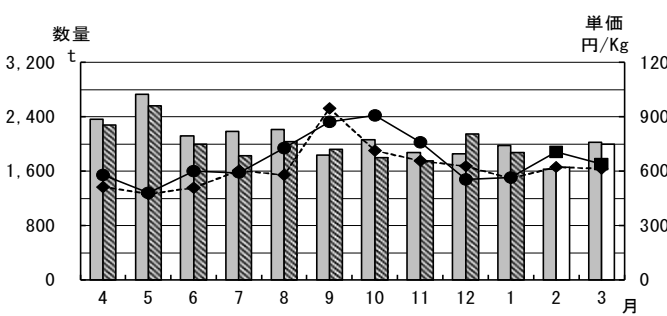
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	2018年	617	415	435	425	393	熊本 58%
	2019年	644	362	396	363	342	愛知 39%
	2020年	653	397	417	411	378	高知 3%
	2021年	591	365	378	369	355	
	2022年	604	364	408	361	337	
	5カ年平均	622	381	407	386	361	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	600	280	400	380	360	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
熊本、愛知を中心に入荷する。2月中旬以降の気温の上昇と日照の増加により、生育は回復する予想。熊本は着果良好で、3月に入り増量傾向。愛知は中旬以降増量し、下級品の割合も多くなる見込み。 入荷量は前年並で、価格は前年を大幅に下回る見込み。							
マ ト	2018年	1,451	319	340	312	308	熊本 51%
	2019年	1,245	356	347	360	364	愛知 23%
	2020年	1,082	394	368	406	407	三重 14%
	2021年	1,223	305	304	311	306	岐阜 10%
	2022年	1,138	317	326	314	317	鹿児島 1%
	5カ年平均	1,228	337	337	338	338	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1,150	360	350	380	360	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
熊本、愛知、三重、岐阜を中心に入荷する。入荷は平年並の見込み。1月中旬以降の冷え込みから、3月中旬以降少なめの予想。春先のサラダ商材の売り場の獲得に向けて、玉売りや、スタンドパック等の多彩な販売方法が展開される予想。 入荷量は前年並、価格は前年をかなり上回る見込み。							
ミ ニ ト マ ト	2018年	536	655	705	652	620	熊本 66%
	2019年	472	723	727	731	715	愛知 27%
	2020年	420	778	791	809	753	和歌山 4%
	2021年	565	628	654	634	604	宮崎 3%
	2022年	587	649	670	658	630	
	5カ年平均	516	680	704	689	658	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	570	600	600	600	600	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
熊本、愛知を中心に入荷する。上、中旬は少なめだが、暖かい日が増えるごとに突発的な増加を繰り返し、下旬に向け増えるが出荷の安定感はない。春に向けた売場構成になり、後半から売り込みが増えるか。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。							

東京都中央卸売市場

2月28日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品 目 名	区分 実績 と見通し	入 荷 量	卸 売 価 格			前年主要産地 (%)	
			上 旬	中 旬	下 旬		
な す	2018年	2, 7 7 8	4 6 5	491	462	444	高知 60%
	2019年	3, 0 5 0	4 1 2	420	414	403	福岡 20%
	2020年	3, 0 5 6	4 4 7	465	454	432	熊本 11%
	2021年	3, 1 6 4	4 0 4	416	403	395	佐賀 3%
	2022年	3, 2 5 1	4 0 2	451	406	363	栃木 2%
	5 ヲ年平均	3, 0 6 0	4 2 5	448	427	406	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	3, 1 0 0	4 3 0	450	430	410	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>高知、福岡など西南暖地からの入荷が中心となる。各産地とも生育は概ね順調。主力の高知は樹勢が改善して着果量が増えているため今後の増量を見込む。下旬に落ち着くも福岡が増える見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
							
ト マ ト	2018年	6, 9 3 9	3 5 6	372	351	344	熊本 31%
	2019年	5, 9 6 5	4 0 9	407	411	409	栃木 26%
	2020年	5, 4 7 2	4 5 8	440	462	468	愛知 13%
	2021年	6, 2 9 4	3 5 3	354	354	352	茨城 6%
	2022年	5, 9 2 1	3 7 4	381	373	369	埼玉 4%
	5 ヲ年平均	6, 1 1 8	3 8 7	389	387	385	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	6, 0 0 0	3 8 0	400	380	360	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、栃木、愛知などからの入荷が中心となる。主力の熊本や愛知は低温のため着色が遅い。気温上昇に伴い増量を見込むものの小玉傾向で大きな伸びはないか。栃木は生育順調。出回りに不足はないか。 入荷量、単価ともに前年並となる見込み。</p>					
							
ミ ニ ト マ ト	2018年	1, 9 6 6	6 0 0	651	592	562	熊本 42%
	2019年	1, 7 5 7	7 1 4	696	727	716	愛知 18%
	2020年	1, 7 4 1	7 5 5	787	794	713	千葉 13%
	2021年	1, 9 6 3	6 0 6	634	625	569	宮崎 9%
	2022年	2, 0 2 7	6 1 3	634	618	592	静岡 7%
	5 ヲ年平均	1, 8 9 1	6 5 4	677	667	626	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2, 0 0 0	6 4 0	690	640	590	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本を中心に、愛知などからの入荷となる。各産地とも生育に大きな問題はなく、着果は良好。気温上昇や日射量増加に伴い、中旬以降に増量していくと見込まれる。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					
							

名古屋市中央卸売市場

2月14日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2018年	567	516	619	539	432	鹿児島 56%
	2019年	415	611	606	630	549	宮崎 30%
	2020年	486	647	657	659	633	高知 12%
	2021年	552	574	621	577	547	茨城 2%
	2022年	505	580	683	629	484	
	5カ年平均	505	582	637	603	525	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	490	583	650	600	500	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>鹿児島、宮崎、高知からほぼ全量を入荷する。上旬までは少なめの入荷が続くが、中下旬より増量してくる見込み。茨城は、下旬から入荷が始まる見込み。3月はフェアなどの企画が入り、全国的に荷動きはいい予想。</p> <p>入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年並となる見込み。</p>							
ばれいしょ	2018年	3,017	127	139	132	113	鹿児島 70%
	2019年	3,102	126	132	130	111	北海道 31%
	2020年	3,425	146	125	129	181	
	2021年	2,435	306	279	326	317	
	2022年	2,715	237	289	244	190	
	5カ年平均	2,939	181	185	184	176	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2,800	200	200	200	200	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>鹿児島、北海道からほぼ全量を入荷する。北海道は貯蔵物からの計画出荷。L中心で、平年より在庫は少ない。鹿児島は離島物中心の販売で、入荷量は天候次第で、3月がピークとなる見込み。</p> <p>入荷量は前年をやや上回り、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。</p>							
たまねぎ	2018年	7,249	99	99	109	94	北海道 76%
	2019年	6,606	116	136	121	100	静岡 14%
	2020年	7,182	77	81	80	74	愛知 7%
	2021年	7,014	86	91	89	80	中国 2%
	2022年	5,766	188	191	184	189	長崎 1%
	5カ年平均	6,763	110	116	114	104	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	7,000	115	115	115	115	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道を中心に静岡、愛知などから入荷する。北海道は、計画出荷でL大中心、生食・道外出荷計画は、約35,500t。静岡、愛知の新玉は、順調な入荷を見込む。愛知は、中旬ごろより碧南産の入荷が開始する予想。</p> <p>入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

2月28日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2018年	1,959	552	629	554	482	茨城 38%
	2019年	1,746	636	631	681	596	宮崎 37%
	2020年	2,042	669	689	671	654	高知 15%
	2021年	2,126	592	637	595	552	鹿児島 10%
	2022年	2,087	609	684	645	530	沖縄 1%
	5カ年平均	1,992	611	655	628	562	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1,900	650	750	650	550	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城のほか、宮崎、高知など西南暖地からの入荷となる。茨城は低温による生育遅れがみられるも、徐々に増量していく見込み。宮崎と高知は生育順調で増量していく、総じて出回りに不足はない見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
ばれいしょ	2018年	7,767	112	120	112	103	北海道 51%
	2019年	7,235	114	120	115	107	鹿児島 47%
	2020年	9,239	126	107	120	148	長崎 1%
	2021年	6,163	280	269	286	286	
	2022年	7,006	224	266	231	186	
	5カ年平均	7,482	164	169	166	161	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	7,200	150	180	150	120	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、鹿児島からの入荷でほとんどを占める。貯蔵品出荷の北海道は小玉傾向に加え、歩留まりが悪く残量が少ない。入荷が本格化する鹿児島は小玉傾向で出荷が遅れ気味。総じて量は少なめか。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
たまねぎ	2018年	11,078	126	124	129	127	北海道 67%
	2019年	10,529	133	139	131	129	静岡 14%
	2020年	12,237	76	79	85	70	佐賀 6%
	2021年	10,923	101	106	104	93	中国 6%
	2022年	9,102	233	225	233	241	長崎 4%
	5カ年平均	10,774	129	130	132	127	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	11,000	120	130	120	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に、静岡、佐賀などからの入荷となる。貯蔵から計画出荷の北海道は、引き続き大中心の潤沢な入荷を見込む。静岡は低温、干ばつのため小玉傾向も気温上昇と降雨で肥大改善するか。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高騰した前年を大幅に下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

1月17日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
果	2018年	7,331	423	431	423	青森	20%	
	2019年	6,850	446	440	454	フィリピン	17%	
	2020年	6,744	446	419	465	愛媛	15%	
	2021年	7,223	444	439	485	愛知	11%	
	2022年	6,551	479	480	470	熊本	10%	
	5ヵ年平均	6,940	447	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き		
	2023年見通し	6,100	460	—	—			
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	<p>かんきつ、りんご、いちごなどが主な品目となる。かんきつは、中晩柑全体で裏年傾向で、大玉中心の見込みだが、箱数は多いか。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>							
りんご	2018年	1,449	334	330	340	青森	100%	
	2019年	1,725	268	262	271			
	2020年	1,572	351	355	360			
	2021年	1,945	253	250	259			
	2022年	1,332	383	377	384			
	5ヵ年平均	1,604	312	310	318	前年及び本年の 入荷量・価格の動き		
	2023年見通し	1,500	300	300	300			
りんご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	<p>青森が主産地となる。下級品中心の荷動きとなるが、つる割れの出荷は減る見込み。春の訪れが早そうな雰囲気があり、中旬以降売れ行きが鈍くなるか。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>							
いちご	2018年	1,002	1,178	1,135	1,171	1,232	愛知	63%
	2019年	889	1,389	1,488	1,456	1,261	熊本	21%
	2020年	905	1,244	1,222	1,254	1,252	鹿児島	7%
	2021年	960	1,384	1,426	1,434	1,318	佐賀	2%
	2022年	1,089	1,127	1,273	1,090	1,028	福岡	2%
	5ヵ年平均	969	1,258	1,305	1,273	1,212	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2023年見通し	1,000	1,200	1,300	1,200	1,100		
いちご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	<p>愛知、熊本を中心に鹿児島などからも入荷する。今後の天候や気温次第だが、増量期となる。各産地、3番果の入荷がピークとなる見込み。また、高温時期に入ってくるため、品質が心配される。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

2月28日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2018年	30,633	491	502	477	493	青森 20%
	2019年	30,143	496	480	496	513	愛媛 16%
	2020年	29,211	512	484	500	498	栃木 9%
	2021年	31,054	509	496	492	543	熊本 9%
	2022年	27,955	565	573	565	556	フィリピン 6%
果	5ヵ年平均	29,799	514	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
果	2023年見通し	29,000	530	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	りんご、いちご、中晩柑類を中心に入荷する。中晩柑類は1月の低温の影響により入荷量は少ない見込み。メロン、すいかななどのハウスものも燃油高の影響等で少なめの入荷となる見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。						
りんご	2018年	6,322	328	322	331	331	青森 98%
	2019年	6,814	269	268	269	269	山形 1%
	2020年	6,069	353	346	343	344	
	2021年	7,533	260	261	260	258	
	2022年	5,612	373	366	377	377	
りんご	5ヵ年平均	6,470	312	309	312	311	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
りんご	2023年見通し	6,300	310	310	305	315	
いちご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	主に青森からの貯蔵品が入荷する。凍霜害の影響により品薄だった前年よりも入荷量は増加し、品質は良好の見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。						
いちご	2018年	5,252	1,209	1,209	1,207	1,212	栃木 43%
	2019年	5,339	1,226	1,228	1,210	1,237	福岡 16%
	2020年	5,102	1,335	1,438	1,359	1,239	茨城 12%
	2021年	5,269	1,371	1,399	1,394	1,328	静岡 9%
	2022年	5,997	1,243	1,335	1,218	1,178	佐賀 7%
いちご	5ヵ年平均	5,392	1,275	1,321	1,275	1,237	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
いちご	2023年見通し	5,300	1,300	1,350	1,300	1,250	
いちご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	栃木や茨城を中心にとちおとめ、福岡からあまおうなどが入荷する。3月上旬までに2番果から3番果へと切り替わり、入荷量は少ない見込み。3月中旬から3番果のピークを迎える見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや上回る見込み。						

切花・鉢花の3月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 3月1日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	2018年	2,023	58	
		2019年	1,960	56	
		2020年	1,868	58	
		2021年	1,871	47	
		2022年	1,661	60	
	5ヵ年平均	1,877	56		
2023年見通し	1,650	60			
概要	愛知、沖縄中心の入荷。彼岸に向け、入荷量は伸びていくが、平年よりは少ない見込みで下旬になると大きく減少すると思われる。				
小 ぎ	実績	2018年	2,408	26	
		2019年	1,820	33	
		2020年	1,784	27	
		2021年	1,854	37	
		2022年	1,854	37	
	5ヵ年平均	1,944	32		
2023年見通し	1,700	40			
概要	沖縄からの入荷。彼岸に向けて入荷量は増加してくるが、彼岸需要もあり、中旬には強い引き合いが予想される。下旬は数量が大きく減少し、月を通して堅調販売となろう。				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	2018年	1,627	38	
		2019年	1,445	46	
		2020年	1,273	41	
		2021年	1,295	52	
		2022年	1,173	59	
	5ヵ年平均	1,363	47		
2023年見通し	1,200	60			
概要	愛知、和歌山中心。彼岸に向け入荷は徐々に伸びていく見込み。輸入も依然として入りにくい状況であるが、例年並の入荷が予想される。				
か す み	実績	2018年	253	68	
		2019年	230	77	
		2020年	188	74	
		2021年	216	93	
		2022年	180	119	
	5ヵ年平均	213	84		
2023年見通し	190	120			
概要	和歌山、高知、熊本からの入荷。気温上昇に伴い、出荷量は増えていくことが予想される。年度末、彼岸の需要もあり、安定した販売が見込まれる。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き	
	実績等				数量 千本	単価 円/本
ゆり	実績	2018年	317	177		
		2019年	275	193		
		2020年	281	160		
		2021年	269	188		
		2022年	242	190		
	5ヵ年平均		277	181		
	2023年見通し		240	190		
概要	<p>オリエンタルは高知、宮崎、愛知、埼玉からの入荷。全体の作付は減っているものの安定した入荷となりそう。鉄砲は高知、九州からの入荷となるが、作付減少により出荷量も多くはない見込み。</p>					
洋らん	実績	2018年	443	85		
		2019年	505	70		
		2020年	425	75		
		2021年	337	108		
		2022年	332	118		
	5ヵ年平均		408	88		
	2023年見通し		330	120		
概要	<p>国内産のコショウラン、カトレアは陽気とともに出荷量は増え、輸入品の出回りも徐々に増加していく。デンファレは中国の引き合い強く、減少の可能性があり、オンシジウムは例年だが輸送遅延等で入荷に乱れありそう。</p>					
ばら	実績	2018年	898	82		
		2019年	758	93		
		2020年	670	83		
		2021年	748	107		
		2022年	782	114		
	5ヵ年平均		771	96		
	2023年見通し		780	115		
概要	<p>愛知、岐阜、三重中心に入荷。国内産は前半少なくて、輸入は堅調な入荷が見込まれる。卒業式等のイベントから年度末の花束需要で強い引き合いが予想される。</p>					
枝も	実績	2018年	1,557	56		
		2019年	1,538	56		
		2020年	1,287	52		
		2021年	1,509	64		
		2022年	1,441	67		
	5ヵ年平均		1,466	59		
	2023年見通し		1,450	68		
概要	<p>1、2月の低温で促成物の出荷は少なめで推移したが、遅れていた分の出荷が増えてくる。3月3日の桃の節句、8日国際女性デー、14日ホワイトデー、18日の彼岸入りとイベントは多く、年度末需要で引き合いは強まる。</p>					

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
カラ	実績	2018年	3, 204	308	
		2019年	1, 141	476	
		2020年	4, 311	396	
		2021年	4, 375	420	
		2022年	5, 693	506	
	5ヵ年平均	3, 745	421		
ラ	2023年見通し		5, 500	509	
概要	<p>入荷量は前年をやや下回るか。鉢サイズの割合も概ね変わらず、5号鉢中心の入荷となる。価格は入荷量の減少に伴い安定。大輪のピンク・黄色の引き合いが変わらず強い。ほぼ100%輸入となる球根の価格や輸送コストが高騰し、販売価格が軒並み値上げとなる見込み。</p> <p>それにより、注文減となれば委託出荷が増え価格は下落すると予想される。前年3月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉（65.9%）、2位千葉（22.5%）、3位長野（10.2%）となっている。</p>				
ファレノ	実績	2018年	30, 161	3, 643	
		2019年	27, 637	3, 752	
		2020年	30, 545	3, 094	
		2021年	28, 684	3, 872	
		2022年	28, 833	4, 236	
	5ヵ年平均	29, 172	3, 719		
シ	2023年見通し		28, 800	4, 236	
概要	<p>入荷量は前年並か。コロナも収まりつつ海外からの苗も順調に入荷してきている。しかし、為替の影響や資材、燃料費の高騰により生産量が増え、出荷量が増えるとは考えにくい。</p> <p>前年3月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（60.9%）、2位宮崎（7.2%）、3位静岡（4.7%）となっている。</p>				
バラ及びミニバラ	実績	2018年	64, 216	187	
		2019年	60, 318	193	
		2020年	63, 425	178	
		2021年	69, 459	197	
		2022年	54, 563	206	
	5ヵ年平均	62, 396	192		
ラ	2023年見通し		54, 000	207	
概要	<p>各種コスト増ではあるが、入荷量は前年並か。3.5号～4号中心で3月前半は引き合いが強くなり安定した販売の見込み。時期的に咲かせた状態での出荷を希望したい。</p> <p>前年3月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（71.8%）、2位岐阜（24.7%）、3位愛媛（3.1%）となっている。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
サイネリア	実績	2018年	80,739	218	
		2019年	66,241	217	
		2020年	60,559	210	
		2021年	56,677	273	
		2022年	48,244	264	
	5カ年平均		62,492	236	
	2023年見通し		47,000	266	
概要	<p>入荷量は前年をわずかに下回るか。地元愛知での作付減が目立つ。3月中旬頃のピークに向けての引き合いの強さは例年通り予想される。コロナの落ち着きもあり品薄状況が予想される。</p> <p>前年3月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(31.4%)、2位奈良(13.6%)、3位富山(12.9%)となっている。</p>				
マーガレット	実績	2018年	103,451	174	
		2019年	76,241	199	
		2020年	74,918	192	
		2021年	95,082	220	
		2022年	89,058	217	
	5カ年平均		87,750	200	
	2023年見通し		89,000	216	
概要	<p>入荷量は前年並か。鉢サイズは、3.5号ポット・4号鉢中心となる。価格面では5号鉢以上が厳しく、主要サイズが安定するため大幅な変動はないと予想。ここ数年、色変わりする品種やアネモネ咲き・ポンポン咲きなどの変わり咲き栄養系品種の人気の高い。</p> <p>前年3月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉(25.9%)、2位愛知(19.6%)、3位静岡(18.6%)となっている。</p>				
デンドロビウム	実績	2018年	25,890	563	
		2019年	22,345	587	
		2020年	20,048	512	
		2021年	16,362	643	
		2022年	14,459	661	
	5カ年平均		19,821	593	
	2023年見通し		14,400	660	
概要	<p>入荷量は前年並か。サイズ別では4～6号中心の入荷になり、全体的に苦戦する見込み。生産量は年々減少傾向にある。</p> <p>前年3月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(44.4%)、2位岡山(28.5%)、3位高知(16.1%)となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.597
2023年3月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434